

環境の取り組み

環境基本理念

製品と生産で、社会と環境に貢献

環境目標

当社では、2030年度をターゲットとした目標を設定しました。特にCO₂削減目標は「2035年カーボンニュートラル達成」に向けた2030年マイルストーンの更新に当たります。その達成に向け、改善活動を進めてまいります。

	廃棄物排出量	水使用量	CO ₂ 排出量	異常・苦情
2025年目標	排出量原単位 国内連結:1.81t/百万個 単体:1.87t/百万個	排出量原単位 国内連結:615m ³ /百万個 単体:595m ³ /百万個	総排出量 連結:57,998t/年 単体:33,665t/年	異常・苦情0件
2030年度目標*	排出量原単位 国内連結:1.70t/百万個 単体:1.71t/百万個	排出量原単位 国内連結:608m ³ /百万個 単体:583m ³ /百万個	2019年度比▲50%	異常・苦情0件

※ 2026年4月より「年度」での目標設定に変更

全社環境保全組織

持続可能な発展を目指し、環境基本理念を実現するために、より実効性のある社内体制に強化しました。特に、カーボンニュートラルに向けた活動の強化を図るために、昨年度より全社環境会議の直下に、CN*委員会を新設し、ヘラス、カエル活動に取り組んでいます。

※ CN:カーボンニュートラル



自然共生

大豊グループでは、環境保全や生物多様性の確保を進め、人と自然が共生する持続可能な社会の構築を目指し、活動に取り組んでいます。

自然共生活動の考え方

事業所を中心とした
周辺地域の自然共生活動

社外活動への参画を
通じた自然共生活動

矢並湿地保全活動

ラムサール条約登録の矢並湿地で、保存会とともに従業員ボランティアが除草作業に参加。従業員が生態系保全の意義を実感するとともに、地域と連携して自然共生を進めています。



カーボンニュートラルの達成に向けて

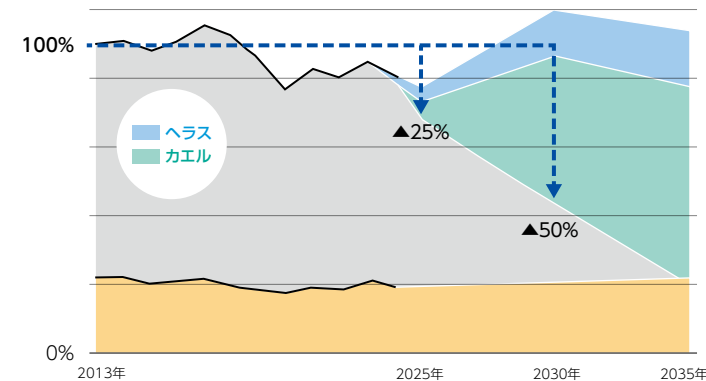
当社では、持続可能な社会の実現のため、CO₂排出量の削減に取り組み、2035年までに国内工場から排出されるCO₂(Scope1・2*)の実質ゼロを目指す方針を設定しています。

この度、2030年目標の設定や環境変化を反映した形でCNロードマップを見直しました。

今後も「ヘラス活動」「カエル活動」を軸にカーボンニュートラルの達成に向けた取り組みを推進してまいります。

※ Scope1:自社での燃料の使用などによる直接的な排出、Scope2:自社が購入した電気などによる間接的な排出

CO₂排出量の割合(tCO₂)



日常改善

- ・不良低減
- ・サイクルタイム短縮

技術革新

- ・革新生産技術の開発・導入による工程削減
- ・熱マネジメントの強化



再生可能エネルギー

- ・太陽光発電システムの導入
- ・グリーン電力の購入

※ クレジットによるオフセット

幸海工場

断熱ジャケット取付による都市ガス量低減(CO₂低減)

乾燥炉の外部壁面に、断熱ジャケットを取り付けることで、外部への放熱が低減され、内部の熱効率がよくなり、都市ガス使用量を低減することでCO₂も低減できました。暑熱対策にもなるため、夏場の作業環境改善に係るエネルギーの低減にもつながります。

➡ CO₂削減効果 約10%低減



廃棄物削減に向けた取り組み

九州工場

端材の活用による、材料ロス低減

従来はうまく活用ができず、廃棄していたコイルの端材について、加工方法を見直すことで、製品として利用できる資源として再活用することができるようになりました。再利用率は、見直し前に比べ、260%を超え、今後も拡大する予定です。

➡ 端材の利用率 260%増加

